

増毛漁業協同組合

藻場再生の取り組みとブルーカーボンによる CO2 削減

活動背景・目的

鉄分の供給により「磯焼け」を克服し、豊かな海藻群落の復元を目指す。

今から30～40年前の増毛町の前浜は、海藻が生い茂り、それを住処にする魚や貝など生命に満ち溢れていましたが、近年の海洋環境の変化などからコンブ等の海藻の群落が消滅し、炭酸カルシウムを主成分とする白色小型海藻類に覆われる磯焼けが進行し、浜は活力を失った状況にありました。

このことに対する増毛漁協独自の取り組みとして、増毛町舎熊海岸等において、鉄分供給ユニットを用いた藻場の再生を、日本製鉄(株)と共同で実施しています。

この事業は、日本各地の沿岸において、磯焼け対策の取り組みとして広がりを見せております。

活動内容

【鉄分供給ユニットによる藻場の造成の試み】

鉄分供給ユニット(転炉系製鋼スラグと人工腐植土を混合した土嚢)を波打ち際に埋設し、海藻の栄養となる腐植酸鉄を海中に供給しています。

平成16年に増毛町の舎熊地区から始めたこの試みも、平成26年には別荘地区、令和4年に箸別地区、令和6年に阿分地区と設置個所を拡大し、藻場の再生・増大に努めています。別荘地区では令和2年以降、繁茂した海藻類ヘニシンが産卵する群来が毎年のように確認されています。

【ブルーカーボンの創出にも貢献】

海藻は、光合成によって海水中の二酸化炭素を効率的に有機物として固定します。このとき、海水の CO2 濃度が減少した分、大気から海水への CO2 の吸収が起こります。沿岸・海洋生態系が光合成により CO2 を取り込み、その後、海底や深海に蓄積される炭素のことをブルーカーボンと呼び、海藻藻場は現在ではブルーカーボンの主要な吸収源として注目されています。増毛漁協では、これまで日本製鉄(株)とともに取り組んできた藻場造成の成果をもとに、J ブルークレジットを共同申請し、令和5年度には49.5t-CO2、令和6年度には12.2t-CO2 の認証を取得しています。

【藻場再生プロジェクトの情報発信】

藻場再生に係る取り組みの情報発信としてHPを作成し、運営しています。[\(http://moba.ws/\)](http://moba.ws/)

活動分類

■食・産業・観光

代表者:石田 和夫

連絡先:指導課

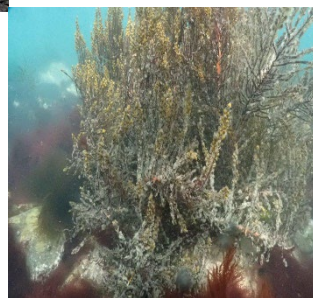
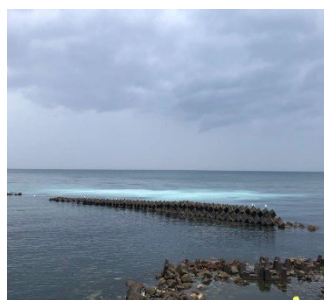
〒077-0221 増毛郡増毛町港町 46-2

TEL: 0164-53-1555 FAX: 0164-53-1221

活動地区:増毛町



▲鉄分供給ユニット(ビバリーバック)の埋設



▲復元された藻場にニシンの群来

今後の展望・課題など

○展望

現在は、増毛漁協・増毛町・日本製鉄(株)の3者で藻場造成の事業に取り組んでおり、海藻が生い茂る豊かな海を目指すとともに、ブルーカーボンによる CO2 削減にも貢献していきたい。